

現代日本の若年者の行動と意識の変容に関する総合的研究

石田 浩 (東京大学・社会科学研究所・教授)

【研究の概要等】

本研究の目的は、若年者を対象にパネル(追跡)調査を実施することにより、若年のライフコース全体像の中での教育・就業・結婚・意識に関する変化を総合的に捉え、相互の関連性を明らかにすることにある。本研究は、若年者の行動と意識に関する従来の分析枠組みでは、卒業後の進路選択と就業にかかわる状況の大きな変貌や離家の遅れ、晩婚化などの結婚行動における変化を十分に把握しきれないという問題意識から出発している。

そこで本研究では、(1)学校から職場への移行、(2)就業行動(非正規雇用、転職など)と労働市場、(3)離家と結婚・家族形成、(4)意識と態度、という4つの分析軸から若年者の行動と意識を分析する。これらの4つの軸を個人のライフサイクルの流れの中で総合的にとらえる。本研究の特色は、若年者個人を数年間にわたって追跡し、彼ら・彼女らの行動と意識の変化をライフサイクル全体の中で総合的に捉えるパネル調査の手法を用いることである。さらに、若年者の教育(教育社会学)、就業(労働経済学)、家族(人口学、家族社会学)、意識(社会意識論、社会心理学)という多様な分野について学際的に研究する特色がある。

【当該研究から期待される成果】

若年者の就業行動や結婚・家族形成をめぐる行動は近年大きな変貌をとげた。学校卒業後、一定の進学先や就職先をもたずに「フリーター」と呼ばれる非正規就業に従事する若年層や、労働意欲自体を失い求職活動もしない「ニート」と呼ばれる若者は社会的な関心を集めている。急速な少子化の主要な要因として、若年層の晩婚化・未婚化があげられ、さらに親元を離れようとしなない「パラサイト・シングル」と呼ばれる若年が世間の注目を浴びた。本研究では若年の行動と意識の変容を明らかにし、若年雇用政策や晩婚化・少子化に関する施策を検討する素地を提供することを目指す。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・石田浩(編)『高校生の進路選択と意識変容』東京大学社会科学研究所、2006年
- ・苅谷剛彦・菅山真次・石田浩(編)『学校・職安と労働市場 - 戦後新規学卒労働市場の制度化過程』東京大学出版会、2000年
- ・佐藤博樹・石田浩・池田謙(編)『社会調査の公開データ - 2次分析への招待』東京大学出版会、2000年
- ・石田浩「後期青年期と階層・労働市場」『教育社会学研究』第76集(2005年5月)41-57頁

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 28,700,000 円

【ホームページアドレス】 開設予定